

# 21世紀万国博覧会基本構想

平成6年6月

21世紀万国博覧会誘致委員会



### (3) 会場ゾーニング構成

#### 1) 構成の考え方

人類社会が今日まで歩んできた長い歴史のなかで、生活の場の変遷を振り返ると、古くは自然そのものに囲まれて採取や狩猟によって生きた時代、農耕技術を身につけて田園地帯を切り拓いた時代、産業革命を契機として工業化をすすめ、都市をつくり出した時代の三つに大別できる。

今日、都市化の波が世界的潮流となり、地球環境問題が深刻さを増しつつある時代にあつて、改めて人間と自然との調和と共生が問われている。

こうした見方に立ち、21世紀万国博覧会においては、会場のなかに人間と自然のかかり合いの異なる三つの型として都市と田園と山村とを対比的に配置し、それぞれの特質を生かした会場ゾーニングを行うことにより、21世紀の人間と自然との関係のあり方を問う場とする。

#### 2) 会場ゾーニング

面積約650haの会場候補地を、地形の特質、水系の分布、自然との共生の仕方、入場者数や交流の密度などによって、三つの性格のことなるゾーン及びそれらを貫く緑のシンボル軸で構成する。また、立地条件のやや異なる北西部、南西部地区は管理ゾーンとする。

##### ①緑のシンボル軸

西側における緩衝帯と東側における猿投・三国山系につながるゾーンとの間に新たな緑のシンボル軸を設ける。

山村ゾーンにおける篠田池周辺、田園ゾーンにおける海上池周辺、都市ゾーンにおける広久手第2池周辺という、最も保全すべき三つのポイントを結ぶとともに、会場候補地内に散在する貴重な自然要素のいくつかを最先端の技術を駆使してここへ移しつつ、この地域に最適の生態系が再生するために必要な条件を可能な限り整えていく。そして、森から海へと連なり、さらに南北へと地球を巡るイメージを演出し、21世紀万国博覧会の意義の強調を支援する。

そうした考え方の中で、観察のために必要な散策道も含めて、自然と人間との多様な関係を表現するとともに「杜づくり」の出発点としての意味を与える。

## ②山村ゾーン

会場の北東部に位置し、自然を最大限に残しつつ会場として活用する面積約30haのゾーンである。少数の入場者を想定してバビリオンは小規模なものを自然の中に点在させるとともに、遊歩道等の整備により自然と接しつつ散策等ができる森の中のゾーンとしていく。

## ③田園ゾーン

会場のほぼ中央部に位置し、21世紀万国博覧会の開催テーマを象徴する施設を集める面積約100haのゾーンである。自然を生かしつつ、比較的少数の入場者を想定して分散的にバビリオンを配置し、バビリオンとそれを取り巻く自然とが融和して一体化できるような会場づくりを行う。施設や道路のための用地をできる限り少量に押さえ、自然環境が保全されるようにする。

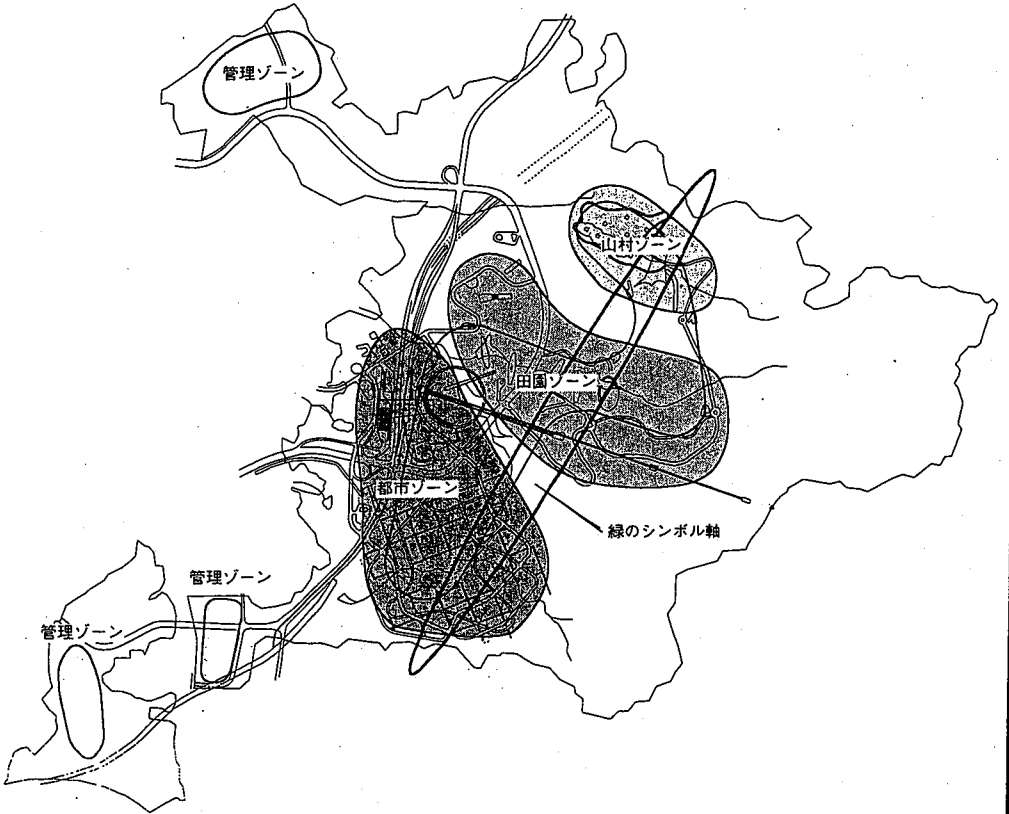
## ④都市ゾーン

会場の南西部に位置し、各国政府館、民間企業・団体館などのバビリオンが比較的集中して配置され、そこに多くの入場者が集まり交流する面積約120haのゾーンである。現状の自然に手を加えることによって創造された自然と広場やバビリオンとが調和したゾーンとする。大量の入場者等を効率よく受け入れられるように施設配置や道路配置を考える。

## ⑤管理ゾーン

会場の北西部に位置する地区、南西部の飛び地地区、サンヒル上之山団地南部の三地区については、上記三ゾーンから離れており、管理施設用地として利用する。

会場ゾーニング構成



#### (4) 主要施設

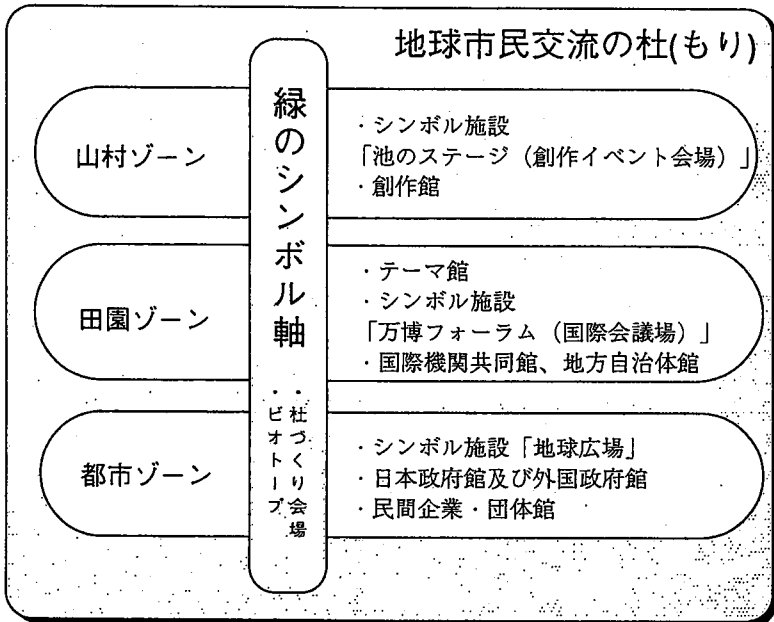
会場は「地球市民交流の杜（もり）」という理念と相呼応する施設や場によって構成することを基本方針とする。

○開催テーマ全体を集約する場としてのテーマ館は田園ゾーンに配置し、また、三つのゾーンを貫く緑のシンボル軸が「地球市民交流の杜」という21世紀万国博覧会全体の場の理念を象徴的に表わす。

○各ゾーンには、それぞれの交流の形態を最もよく表わすシンボル施設として「地球広場」、「万博フォーラム（国際会議場）」、「池のステージ（創作イベント会場）」を設ける。

これらの考え方を骨格として会場を構成する主要施設を示すと以下のとおりである。

#### 主要施設



## 2-3. 土地利用

### (1) 土地利用配置の考え方

#### 1) 各ゾーンにおける交流のあり方や地形の変化に応じた土地利用

地形的に比較的余裕があり、大きな平場の確保が可能な都市ゾーンでは、不特定多数の来場者と大勢の参加者、出展者の流動型の交流の場として多くの施設を集中的に配置する。

田園ゾーンでは、長時間にわたる密度の濃い参加・体験を通じた交流の場とするため、特定のテーマに沿った展示・交流施設に限定して、地形的な変化を見極めつつやや分散的に配置する。

大規模な平場を設けず、現状の地形をできるだけ保存する山村ゾーンでは、少人数による特定の参加型交流の場として小規模な展示・交流施設を点的に配置する。

#### 2) 水系を中心に各ゾーンを構成する

都市、田園、山村の三つのゾーンをそれぞれ流れる水系（吉田川、海上川、篠田川）を中心に各ゾーンの施設を展開する。水系に対する施設のかかわり方によって各ゾーンの自然環境のあり方を示す。

都市ゾーンでは、広久手第2池を中心に吉田川沿いを親水公園として整備し、その周辺に施設を展開する。吉田川沿いの親水公園とつながる広場を設け、広場を取り囲む形で施設を配置する。それぞれの広場と施設によって一つの都市環境を創出し、広場ごとに多様な都市環境を提示する。またこれらの広場や親水公園等の都市的自然景観の中を通過して、来場者は都市ゾーンを回遊する。

田園ゾーンでは、海上川、海上池を中心に施設を配置し、海上川沿いの地形を活かして施設を展開するとともに自然景観に溶け込んだ施設を設ける。また海上川沿いでは橋状の構造物を利用して谷を渡る、あるいは谷底から橋梁へ上がる移動システムと一体となった展示や催し場を設ける。

山村ゾーンでは、篠田池の周辺に自然環境への影響を抑えた形態で施設を点在させる。篠田池の水面や森の中にステージ等を設け、展示・交流施設として利用する。

### 3) 土地の高低差にあわせて施設の機能を考える

地形に対応した来場者の行動様式を基に配置する施設の機能を考える。各ゾーンの地形の高低差によって誘発される人の流れを生かして、来場者を交流（イベントなど）の場となる水際空間に誘導する。高い部分には休憩、飲食等の場を設け、人の流れの集まる水際の周辺など低部には交流の場を配置する。その中間の領域には主に展示施設を配置する。

### 4) すべての参加者が快適に自然を楽しめる設備を設ける

高齢者や身体障害者を含めて、すべての入場者がそれぞれの体力や興味に応じて、会場内の自然環境を快適に楽しむために必要な設備をできる限り設けていく。

### 5) 施設と自然のかかわり方にルールを設ける

パビリオンをはじめとする各種施設の整備に当たって、施設と自然との関係づくりにより一定の指針を設け、その主旨を生かして各施設が創意工夫を講じることによって、会場全体の統一感を演出するとともに、自然と共生する会場という基本方針をわかり易く目に見えるかたちで実現する。

#### [指針の例]

- ①施設と自然の水と緑との間に画然とした境界がないよう、双方が調和、融和する施設づくりを行う。
- ②自然の水と緑を最大限生かすとともに、施設や広場の中に人工の水と緑を多用した環境サービス装置をふんだんに取り入れる。
- ③各パビリオンは広場等に面するように配置し、広場毎に独特の自然環境の雰囲気醸し出されるような方策を取り入れる。



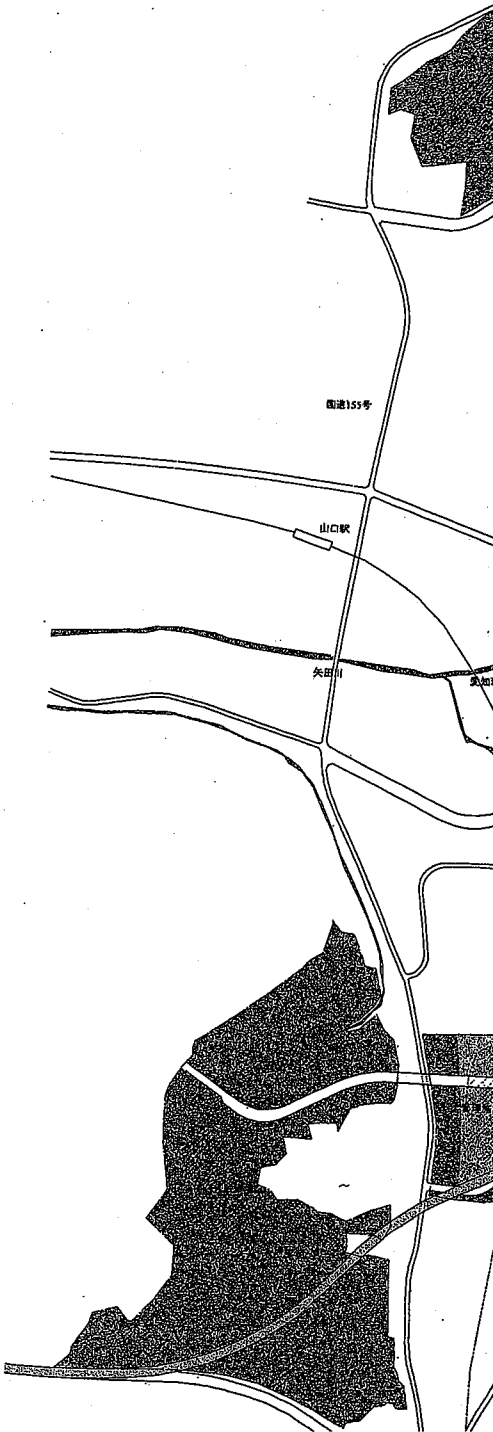
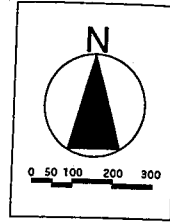
## (2) 会場構想図

これまでの検討を踏まえて、21世紀万国博覧会会場の基本的なあり方を構想図としてまとめると次頁に示すようなイメージとなる。









今後は、誘致・開催の手続きを進める中で、特に、環境影響の調査、埋蔵文化財等の調査、道路等社会基盤整備事業の状況等を踏まえ、基本理念をよりの確に反映させた会場計画としていく。

世紀万国博覧会会場  
EXPO2005






会場構想図





(1) 展示施設

-  各国政府館出展ゾーン
-  外国政府共同館
-  民間企業・団体館出展ゾーン
-  テーマ館
-  万博フォーラム
-  国際機関共同館
-  地方自治体館出展ゾーン
-  創作館





(2) 基幹施設

-  地球広場
-  池のステージ
-  小規模交流施設
-  迎賓館
-  ゲート施設、サービスステーション

(3) 管理施設その他

-  管理施設
-  アミューズメント施設

(4) 基盤施設

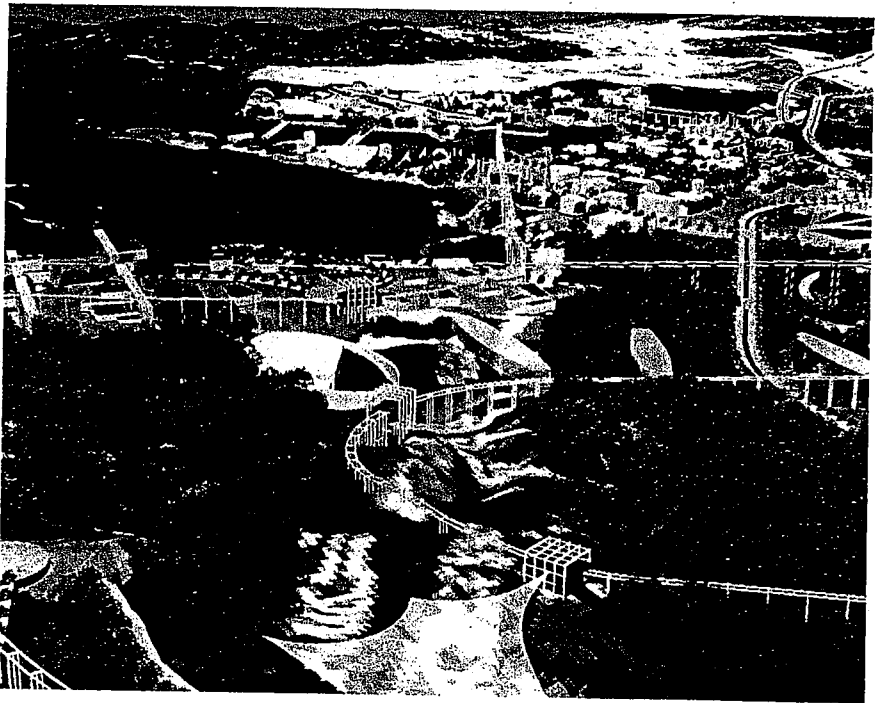
-  域内道路、バスターミナル等
-  緑道、ムービングウオーク等
-  新交通システム駅、スカイウェイ等の環状施設
-  本古原瀬戸灌漑

### (3) ゾーン別土地利用

#### 1) 地球市民交流の杜を象徴する緑のシンボル軸

- 地球市民交流の杜を象徴的に表わす「緑のシンボル軸」を、三ゾーンの最も貴重な生態系保全地区を繋ぐかたちで設ける。
- この緑のシンボル軸は、かつての博覧会のシンボルのように塔などの固定的な建築物ではなく、生ける杜として広がり、やがて博覧会会場跡地全体に21世紀の杜が広がることを目指すものである。
- この緑の軸上には「風土に根ざしたさまざまな動植物が生息する生態系保存の場（ビオトープ）」、「地球市民による杜づくり」などの開催テーマにふさわしい場とする。

緑のシンボル軸のイメージ

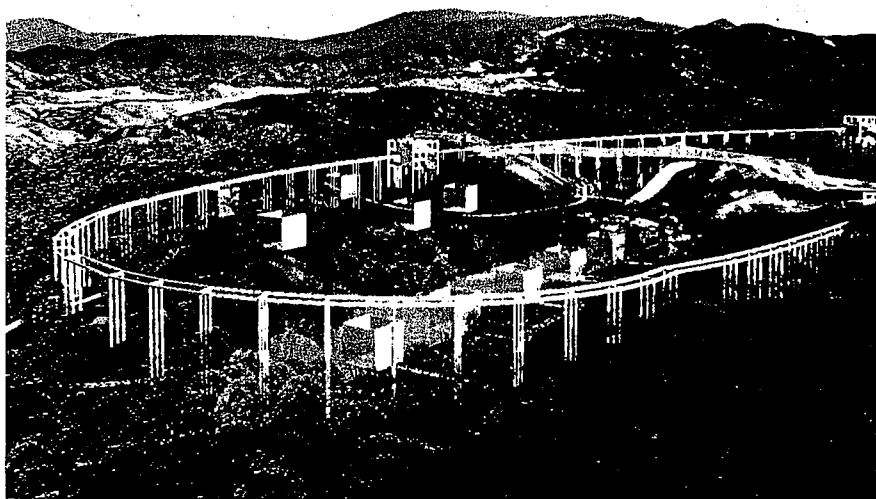


CG製作 大阪大学笹田研究室

## 2) 山村ゾーン

- 山村ゾーンは、大きな造成を行わず、現在の地形、自然をできるだけ活かす。
- 小規模なパビリオンを、篠田池周辺に地形に手を加えない点在的な配置形態で設ける。  
ここでは、芸術家や科学者等が、時間をかけた交流を行い、創作活動を展開する。
- シンボル施設として、地形に手を加えない工法によって「池のステージ」を設け、創作された作品の発表の場、多様なイベントの開催の場とする。

### 山村ゾーンのイメージ



CG製作 大阪大学笹田研究室

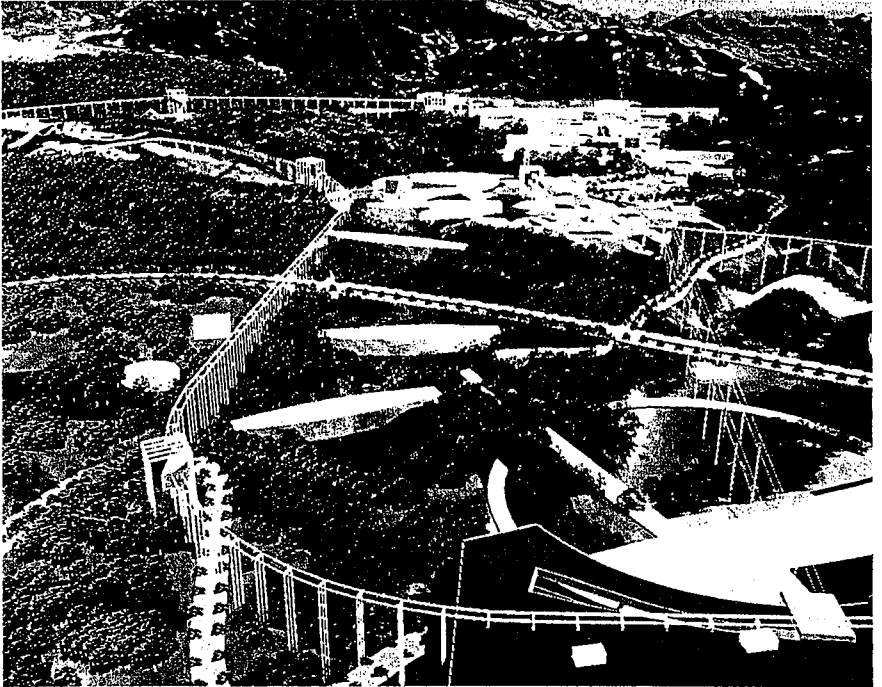
### 山村ゾーンにおける主要施設

ゾーン	種別	施設	内容	配置のイメージ
山村ゾーン	展示施設	創作館	世界各国の先鋭的な芸術家、科学者等が集って、最も豊かな自然環境の中で、新たな創造活動を実践するための場	篠田池水面と北側斜面等 小規模な施設を点在させる
	基幹施設	池のステージ	創作館を一望する観客席と、演劇や舞踏等による創作作品の発表の場としての役割を果たす施設	篠田池の東端
		サービスステーション	インフォメーション、飲食、購買、その他サービスを提供する施設 特に山間部におけるきめ細かなサービスを提供するスポット	ゾーン内に効果的に配置

### 3) 田園ゾーン

- 田園ゾーンには、万国博覧会の開催テーマをアピールする中核的施設を展開する。視覚的にもテーマをシンボルとして訴えることが効果的な「谷に懸ける」形態の建物を設け、田園ゾーンにおける動線の役割も果たす。
- とくに、自然との共生を象徴的に表わすため、海上川沿いに自然の地形を活かした形態で「テーマ館」、シンボル施設として「万博フォーラム（国際会議場）」を設ける。
- また、海上池の南東部では「万博フォーラム」と連携して、国際機関共同館、地方自治体館等を配置する。
- さらに、宿泊・滞在機能を有する小規模交流施設を設け、万国博覧会における密度の高い交流、知恵の交流の場を形成する。

#### 田園ゾーンのイメージ



CG製作 大阪大学笹田研究室

田園ゾーンにおける主要施設と出展ゾーン

ゾーン	種別	施設	内容	配置のイメージ
田園ゾーン	展示施設	テーマ館	メインテーマの「技術・文化・交流」を強く意識した展示施設 情報通信、人工知能、バイオ等の高度技術とその研究開発現場の展示	海上川沿いの地区
		万博フォーラム	メインテーマの「交流」を強く意識した大型の国際会議場	対象地域の象徴的存在である海上池を取り込んで配置
		国際機関共同館	40団体程度がいくつかの建物に分かれて、共同で出展できる施設	海上池の南東部
		地方自治体館出展ゾーン	5～10程度の自治体館が出展できる区画を用意する	海上池の南東部
	基幹施設	小規模交流施設	世界中の様々な専門家やクリエイター等が集まって交流する際に、分科会場となり、宿泊・滞在しながらより密度の高い交流が可能となる施設	緑のシンボル軸内に配置
		迎賓館	世界中から訪れる要人を迎える施設	海上川を介して田園ゾーンを臨む位置
		北ゲート施設	博覧会会場に北方面からアクセスするためのゲート	篠田池の南西部
		サービスステーション	インフォメーション、飲食、購買、その他サービスを提供する施設	ゾーン内に効果的に配置
	管理施設他	バスターミナル	シャトルバス、団体バス等の乗降ターミナル	ゲート位置
		アミューズメント施設等	来場者の楽しみの場の一つとして提供するサービス施設 レクリエーション・パーク等としても役割を担う	海上池の南東部

#### 4) 都市ゾーン

- 都市ゾーンは、会場内でまとまった平坦地の確保できる場所であり、多くの観客を集めることができる。都市ゾーンには、日本政府、各国政府の出展パビリオン、外国政府の共同館、民間企業等のパビリオンを配するほか、シンボル施設として多彩な交流催事を行う「地球広場」を設ける。
- 都市ゾーンでは、広場を設けその周辺にパビリオンを配し、広場ごとにそれぞれ異なった都市景観を創造することを目指す。
- 吉田川の兩岸の地区を一体化するために橋をかけ、河川沿いの自然を保全するとともに大量の観客の通行に適したものとする。

#### 都市ゾーンのイメージ



CG製作 大阪大学笹田研究室



都市ゾーンにおける主要施設と出展ゾーン

ゾーン	種別	施設	内容	配置のイメージ
都市ゾーン	展示施設	日本政府館及び各国政府館出展ゾーン	50ヶ国程度が単独で出展できるように区画を用意する 吉田川沿岸を整備して公園とする	都市ゾーン南側の利便性の高い地区
		外国政府共同館	50～70ヶ国が共同で出展できるような施設	地球広場南側の比較利便性の高い地区
		民間企業・団体館出展ゾーン	30館程度が出展できる区画を用意する	地球広場南側のゾーン
	基幹施設	人工地盤	新しい都市環境創造の実験場として、交通、供給処理、商業等の施設を収容できる施設 屋上を緑化して空中庭園とする	都市ゾーンの北部で中央ゲートの正面
		地球広場	一部人工地盤内にかかる、21世紀万国博覧会のメイン広場 開会式、ナショナルデー等の開催場所となる	人工地盤と一体的に配置
		南ゲート施設	瀬戸市街地からの景観に配慮して極力緑化したゲート施設	愛知環状鉄道の仮設駅にもっとも近い位置
		中央ゲート施設	名古屋瀬戸道路の上部空間を有効利用し、瀬戸市街地からの景観にも配慮したゲート施設	瀬戸市街地方面から直接アクセスする位置
		サービスステーション	インフォメーション、飲食、購買、その他サービスを提供する施設	ゾーン内に効果的に配置
	管理施設	協会本部	協会本部や関連オフィスが入居する施設	中央ゲート北側
		プレスセンター	各国報道機関の拠点が入居する施設 博覧会会場のテレポートセンターの役割も果たす	中央ゲート北側
		バスターミナル	シャトルバス、団体バス等の乗降ターミナル	ゲート位置

5) 管理ゾーン

○会場の主要部分（山村・田園・都市の各ゾーン）から離れており、観客が利用することが難しい場所は管理施設用地として活用する。